

[成果情報名] 中晩生カンキツ「不知火」の「シングルシトルメロ」台による増収効果

[要 約] 中晩生カンキツ「不知火」の台木として「シングルシトルメロ」を用いると、樹が大きくなるのが早く、1樹当たり収量も多い。果実は大玉果の比率がやや高く、糖、クエン酸がやや低い傾向がある。

[キーワード] 不知火、台木、生育、収量、品質、シングルシトルメロ

[担 当] 静岡農林技研・果樹研セ・栽培育種科

[連絡先] 電話 054-334-4853、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

「不知火」は高品質な果実が生産されるが、カラタチ台では結実を開始すると樹勢が弱くなる特性がある。そこで、台木にわい性の「ヒリュウ」と強勢の「シングルシトルメロ」を用い、「不知火」の安定生産に適した台木を選定する。

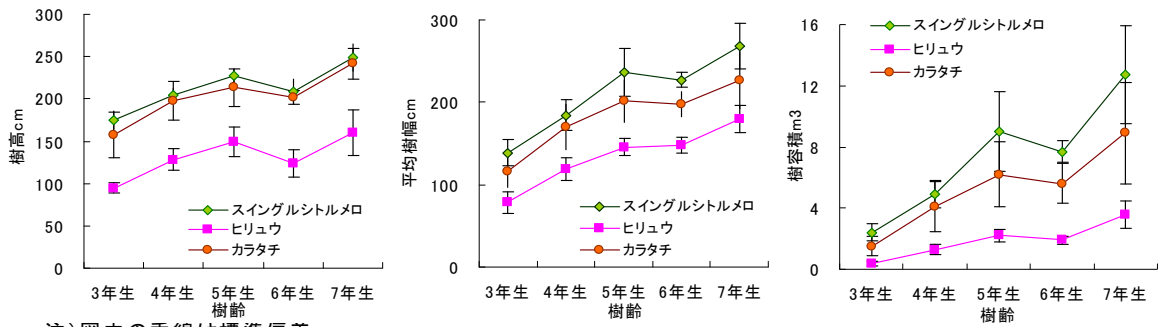
[成果の内容・特徴]

- 1 「シングルシトルメロ」ではカラタチに比べ樹幅が大きく、樹高には差がない。7年生樹の樹容積は「ヒリュウ」がカラタチの1/2程度、「シングルシトルメロ」が1.5倍程度となり、樹の大きさには違いがみられる(図1)。
- 2 1樹当たり収量が多い順に「シングルシトルメロ」、カラタチ、「ヒリュウ」となり、7年生までの累積収量には明らかな違いがある(表1)。
- 3 階級別個数割合は「シングルシトルメロ」がカラタチ、「ヒリュウ」に比べ2L、3L程度の大玉果がやや多くなる傾向がある(図2)。
- 4 果実品質は「シングルシトルメロ」で糖度がやや低くなるが、クエン酸含量が低いため可食適期を迎えるのが早く、早期収穫や出荷が可能となる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成果は7年生樹までのデータであり、カラタチ台を基準とする慣行栽培によるものであり、「シングルシトルメロ」を用いる場合は、施肥量や摘果程度などについて樹勢に応じて加減する必要がある。
- 2 「シングルシトルメロ」を台木として用いる場合は、台木育成のための種子の確保が必要である。
- 3 本成果における「不知火」はウイルスフリー化後カンキツトリストテザウイルス(CTV)弱毒系統M16Aを接種した穂木を用いた。

[具体的データ]



注) 図中の垂線は標準偏差

図1 台木の種類が「不知火」の樹高、平均樹幅、樹容積の年次推移に及ぼす影響

表1 台木の種類が「不知火」1樹当たりの収量に及ぼす影響

台木	kg/樹				計 ^z
	4年生	5年生	6年生	7年生	
シングルシトルメロ	5.75 a ^y	11.94 a	27.27 a	31.08 a	76.05 a
ヒリュウ	1.25 b	6.15 b	9.39 c	9.11 c	23.08 c
カラタチ	3.11 b	3.32 b	18.87 b	20.61 b	48.74 b
有意性 ^x	**	**	**	**	**

z4年生～7年生の累計 y Tukey法(5%水準) x **は危険率1%

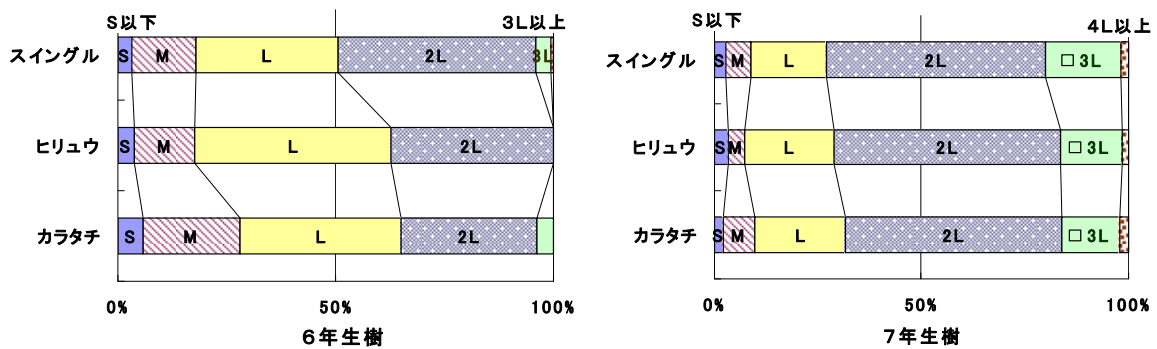


図2 台木の種類が「不知火」の階級別個数割合(%)に及ぼす影響

表2 台木の種類が「不知火」の糖度とクエン酸含量に及ぼす影響

台木	糖度				クエン酸%				調査果実重		
	4年生	5年生	6年生	7年生	4年生	5年生	6年生	7年生	5年生	6年生	7年生
シングルシトルメロ	13.4	16.0 b ^z	15.6 b	14.9	1.09 b	1.18	1.10 b	1.12	316 a	245	278.1
ヒリュウ	14.5	17.8 a	16.2 ab	15.5	1.29 a	1.26	1.24 a	1.12	203 b	245	301.3
カラタチ	14.3	17.2 a	16.6 a	15.6	1.21 a	1.30	1.24 a	1.18	270 a	216	290.1
有意性 ^y	n.s.	**	*	n.s.	*	n.s.	**	n.s.	*	n.s.	n.s.

z Tukey法(5%水準) y **は危険率1% *は5%, n.s.は有意差なし

[その他]

研究課題名：作業性向上のための新品種栽培方法の開発

予算区分：県単

研究期間：2003～2010年度

研究担当者：中畷輝子、馬場明子、佐々木俊之